

近代の町まいにおける家事に関する研究(1) - 大庄屋伊佐真吾氏宅の場合
 京都府大生活科 町田玲子

目的 これからの生活において家事をどのように改善していくのかがおもしろいか - どのような研究姿勢で、近代の町まいにおける家事に関して考察することが、本研究の目的である。本報告では、江戸時代(1734年)に建立され、その後、増改築を重ねながら、最近まで日常生活が営まれていた伊佐真吾氏宅の場合をとりあげた。当家は、京都府八幡市内にあり、木津川に面した地域に所在する。大庄屋であった当家の、屋敷および屋敷地の変遷については、多く残されている未整理の文書類によって、その経過をたどることができようが、実際にどのような生活が営まれていたか、とくに家事をはじめとする日常的な生活の変容については、文書類だけでは具体的に知ることは困難である。

方法 そこで、当家の主婦(明治39年生れ)、および当主の妹(明治37年生れ)の2人の婦人達に対し、数回にわたって訪問による聞きとり調査を行った。調査時期は、1981年5月~7月である。調査内容は、①各人々の使い方、②屋敷地の管理などによる生活、③冠婚葬祭などのつきあい、④家事空間・家事内容、などである。なお本報告では、明治末~昭和20年代を中心としてとりあつかう。

結果 (1)当家の家事は、使用人、とくに男衆による勞働に依存するところが大きかった。また、町まいの維持管理面ではテッタイの人(牛伝人)の協力が不可欠であった。これらの人々が得にくくなった大正末、および昭和20年代半ばの頃か、家事や町まいの維持に関わる仕事内容の変わる時期であったと思われる。

参考文献 「八幡町史 第2巻」「京都府の民家」(京都府教育委員会)「新埜」昭和37年11月号